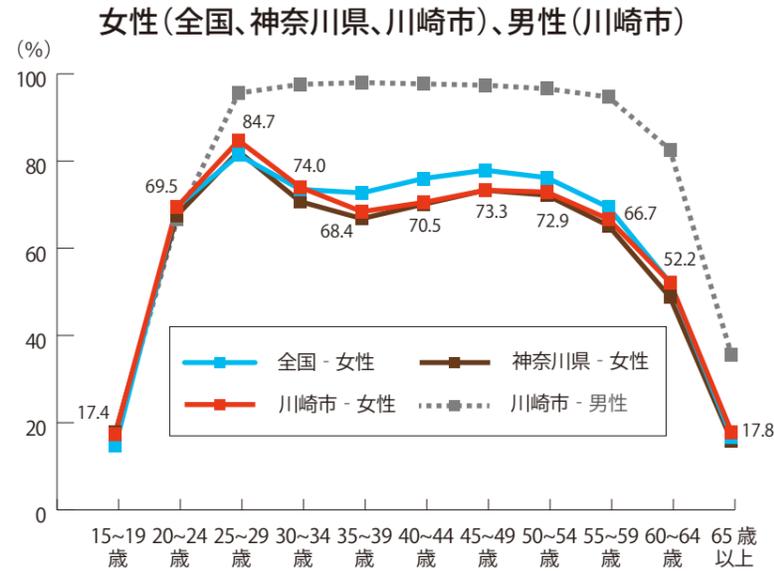


働く女性と雇用形態

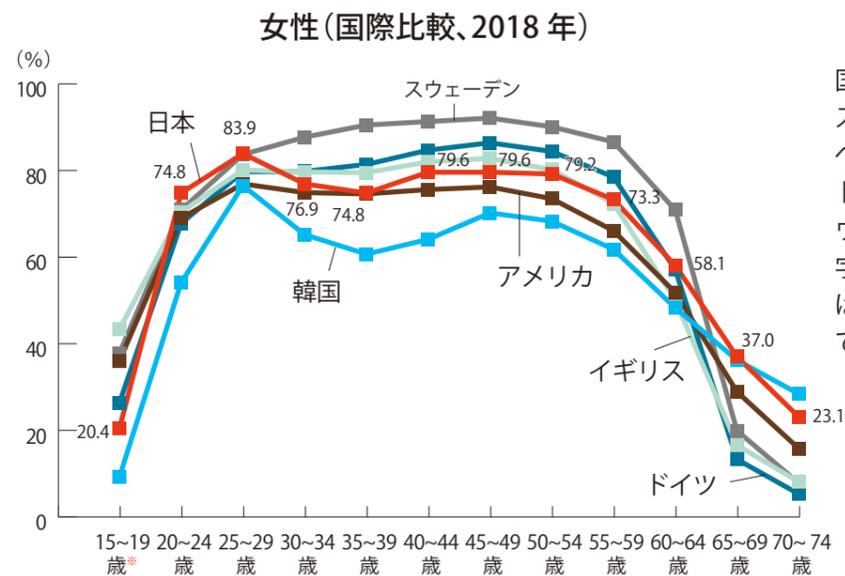
ここでは、かわさきで働く人びとを「働く女性と雇用形態」という観点から見てみましょう。かわさきは、都心への通勤圏内であり、実際に、東京都へ通勤している方が多いことは先に見たとおりです。女性の働き方には、どのような特徴があるのでしょうか。

年齢階級別労働力率



男性は 20 代後半から 50 代までは切れ目なくずっと就業しています。女性は M 字カーブ (11 ページ下欄参照。) になっており、川崎市だけでなく、全国でも、神奈川県でも同じです。

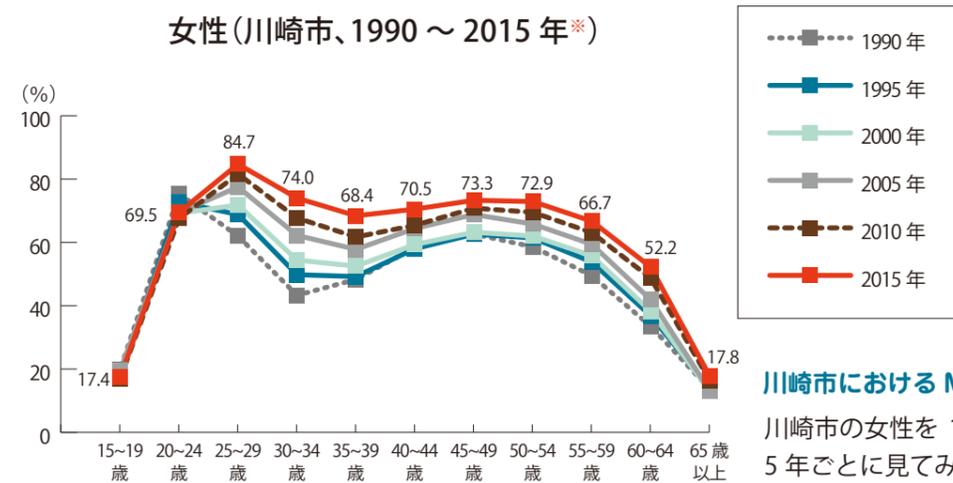
出典：総務省統計局「平成 27 年国勢調査」
川崎市「川崎市の人口(3) - 平成 27 年国勢調査 - 統計表」 <http://www.city.kawasaki.jp/170/page/0000091658.html> (2019.12.1 取得)
神奈川県「平成 27 年国勢調査就業状態等基本集計結果(神奈川県の概要)」
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/x6z/tc30/jinko/kokucho/documents/00setumei.pdf> (2019.12.1 取得)
※いずれも労働力状態「不詳」を除く



国際比較で M 字カーブを見ると、スウェーデンは U 字カーブ (11 ページ下欄参照。) になっており、ドイツ、イギリス、アメリカもスウェーデンほどではなくとも、M 字には見えません。一方、韓国では、わが国よりも深い M 字を描いていることがわかります。

※アメリカ・イギリスは、16~19 歳
出典：(独)労働政策研究・研修機構『データブック国際労働比較 2019』(数値は 2018 年時点)を元に作成
<https://www.jil.go.jp/kokunai/statistics/databook/2019/documents/Databook2019.pdf> (2020.2.24 取得)

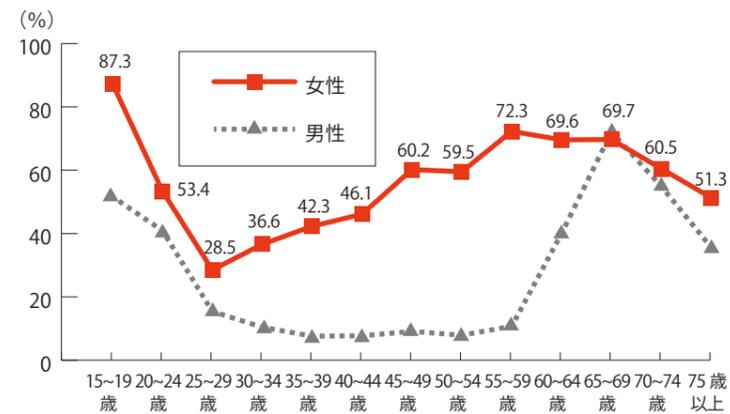
女性(川崎市、1990~2015 年※)



川崎市における M 字カーブ (トレンド)

川崎市の女性を 1990 年から 2015 年までを 5 年ごとに見てみると、M 字カーブのくぼみが徐々に浅くなっていることがわかります。ですが、30 代以降は未だ労働力率の低下が見られ、7 割前後に留まっています。

年齢階級別、非正規雇用比率※(川崎市)



女性の非正規雇用率は 20 代後半から上昇

男性では学卒後の 20 代後半以降、50 代まで非正規雇用比率は 10% 台かそれ以下であるのに対し、女性は 20 代後半から非正規雇用率の上昇が続き、40 代後半で雇用者の約 6 割に達します。

「平成 29 年就業構造基本調査結果」を元に作成
※雇用者に占める「派遣社員」「パート・アルバイト・その他」の比率

M 字カーブとは

女性の 5 歳階級別労働力率を折れ線グラフで見ると、30 代から 40 代前半にかけて労働力率が下がっていることがわかってきます。アルファベットの「M」の字に見えることから、「M 字カーブ」と呼ばれています。女性の 30 代から 40 代前半と言えば、出産・子育て年齢に該当することから、「女性でこの年代で就労人口が減るのは自然なこと」と考える方も、わが国には多いと思われます。川崎市でも、全国的な状況と同様に、M 字カーブを描いており、全国平均よりも労働力率が低くなっています。

しかし、国際比較を見ると、諸外国では、M 字カーブにはなっていません。どうしてでしょうか。諸外国でも、出産するのは女性のはずです。M 字カーブを描かない諸外国の折れ線は「U」を逆さまにしているように見えることから「U 字カーブ」ということもあります。U 字カーブを描いている諸外国では、女性が出産や子育てで仕事を中断することなく、働き続けることのできる仕組みが備わっているとされています。